

一般質問



大橋 議員

○市民が安心してお米が食べられる米農家政策について

質 今福地区で生産されるお米に關しては地区指定米としての取り扱いは行われていると伺っていますが、どのようなものかお聞かせください。
農林課長 地区指定米は、JA經由で生活協同組合に出荷されている米で、化学肥料や農薬を決められた種類や量の範囲内で栽培された米のことをいいます。昨年は玄米30キログラム当たり150円の上乗せで出荷されていると伺っております。

質 米農家が生産される米、それを市民に食してもらうために、JAに協力してもらって確保してもらおう。それに対し、地区指定米の加算金を30キログラム当たり500円ないし1000円上乗せして、JAを通じて出してもらおう。まちの精米所で精米できるのが理想ですが、公設民営の精米所をつくるなど、全国にはまだ例がない取り組みということ、生産自治体である本市でぜひ取り組んでいただきたいと考えておりますけれども、市長のお考えをお聞かせく

ださい。
市長 米の流通システムに關わっていただける方が市内の精米業者等におられれば、本市としても対応できないか検討したいと思ひます。

○志佐漁港水産種苗生産施設用地活用について

質 西九州自動車道も平戸インターが開通します。産学官一体となった志佐漁港用地活用プロジェクトを早速に立ち上げて、民間にハドルを握らせてください。魚市も海のふるさと館もそうしてきて今があるはず。今後の取り組みについてお考えをお聞かせください。

市長 志佐漁港種苗生産用地の活用については、民間事業者による活用を前提としたサウンディング調査を実施し、その中で、一部市による事業化を含む提案があり、サウンディングでの提案を実現するためには、関係者と一体となって取り組んでいくことは重要であり、市、サウンディング提案者、用地隣接者の三者間での協議を早速に進めていきたいと考えています。志佐漁港種苗生産用地をどう生かすかが重要な問題であると充分承知していますので、これまでの提案の中身をどう進めていくのかを含め、取り組んでいただきたいと思ひます。

一般質問



神田 議員

○赤潮対策について

質 昨年7月に発生した伊万里湾における赤潮の発生状況および被害状況についてお尋ねします。

水産課長 令和6年7月の赤潮の発生状況は、7月1日に伊万里湾口部の魚固島の地先で2細胞が確認され、7月11日には星鹿地先で最高となる95細胞を記録しました。被害状況については、ブリ、ヒラマサ、マグロなどの魚種で、被害数が約7万4千尾、被害金額が5億7千万円となっております。

質 足し網が赤潮被害を低減する効果があるということ、養殖業者の方々へ推進していく必要があると思ひますが、考え方をお尋ねします。

水産課長 足し網の導入で、いけすの養殖魚が有害プランクトンの少ないところへ逃げるのが可能となり、生存する確率が上がることが期待されます。他の海域において、足し網による効果が確認されており、本市としても、赤潮被害軽減につながるものとして、新松浦漁協を通じて養殖業者に対し、足し網等を導入するよう働きかけを行っています。
質 今後の赤潮対策について、総括

的な考え方についてお伺いします。

市長 これまで長崎県知事および県議会議員に対し伊万里湾における赤潮対策について要望を重ねてきました。養殖現場においては、長期間の赤潮の監視調査や防除剤散布などに多大な労力と費用を要しており、赤潮発生後の対策だけでなく、発生を抑制する対策が強く望まれています。これまでは被害を受けられた養殖業者の救済を目的として支援を行ってきましたが、今後は、可能な限り赤潮被害を受けない、軽減するための支援に力を入れていきたいと考えています。

○佐賀県道筒井万賀里川線の現状について

質 全国原子力発電所所在市町村協議会の首長からも、避難道路の整備や防護施設の維持管理に必要な財政支援等の要望があることを踏まえ、今後国に対し、どのような行動を取られ、避難道路整備等の必要性を訴えていられるのかお伺いします。

市長 国、県への要望活動の際にも、原子力災害時の緊急避難道路である佐賀県道筒井万賀里川線の改良促進を図るよう求めました。今後も、関係自治体と連携し、市民の安全性の確保と不安や負担軽減のため、原子力災害対策の進捗を図るよう国へ強く要望していきます。